

望楼のある港町

赤泊

まちなみ散策マップ



八角形の望楼。

酒蔵。

約1.5kmに渡って建ち並ぶ

妻入りと平入りの町屋。

佐渡奉行が金銀山へ

行くために通った赤泊街道。

佐渡赤泊は

中世から続く港町で、

歴史的な町並みが

今も残っている

全国的にも貴重な場所です。



歴史

◆赤泊のなりたち

赤泊は中世以来の港町で、海岸線に沿って家々が連なっています。今の港の近くに、弁天様を祀る赤岩があり、その西側にあった入り江がかつての湊(泊)で、船がこの赤岩を目印に入ってきたことから、赤泊という地名になったと言われています。また、この地域は海岸に丘陵が迫り、耕地が少なく農業だけでは生活が成り立たなかった為、漁業や回船業、北海道へ商人として出稼ぐ松前稼ぎが、江戸時代から明治初期の主な産業でした。

◆港と街道

赤泊の港は相川金銀山の開発に伴い、対岸越後の最短距離にあることから、人が往来する渡海場として整備されました。正徳期(1711~15)佐渡奉行が二人制になると、経費や送迎する村々の負担軽減のため、赴任は寺泊・赤泊、離任は従来の小木・出雲崎のコースをとるようになり、さらに文政10(1827)年には、旅客用に対岸の寺泊とを結ぶ押渡早船が設けられ、佐渡の玄関口として栄えました。

赤泊港から海岸沿いに徳和浦津を通り、小佐渡山地を越えて真野新町に至る赤泊街道は、佐渡奉行が相川へ向かう公道で、殿様道と呼ばれていました

◆赤泊の町並み

赤泊の町は、港に出入りする船、その船が運ぶ物資や人を掌握するため、江戸初期に置かれた御番所と、回船問屋の傍らその業務を補助した五人問屋(裏面参照)を中心に発展しました。町並みは元来、海岸線の山側のみに建物が並ぶ片町でしたが、元和6(1620)年、山・浜両側に家を建てたいとの要望が出され、両側町に変化していきました。

明治7(1874)年に約130戸が焼失する大火に見舞われましたが、その後、海岸の埋め立てや道路の拡幅を行い、明治末には北は徳和浦津まで、南は上町第一まで建物が並ぶようになりました。

◆港の整備

赤泊の港の整備に関する最も古い記録は、万治3(1660)年に五人問屋が港の波除工事をした時のもので、江戸中期に佐渡奉行の着船港となって、継続的に整備がなされていきました。

その後、松前稼ぎで財を成した田辺九郎平氏が、私財により明治20(1887)年に約150mの波止場を築く大工事を行い、越後の定期船路も通うようになりました。そして、埋め立てや、海岸バイパス道路の整備を経て、現在の姿になりました。



右の写真は大正末期の上町第二の町並み(「村制施行100周年記念誌」より転載)です。今でも、左手の淡路屋や右手の外内呉服店等が残り、当時の町並みを現在に伝えています。

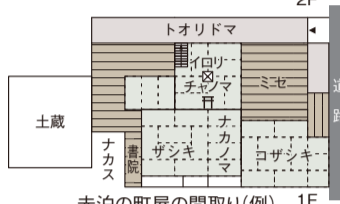
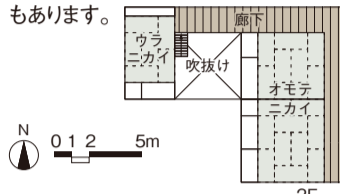
町屋

◆町屋とは

町屋というのは町場に軒を連ねる商家や職人の住居の総称で、主に江戸時代から昭和の初めにかけて建てられたものを言います。赤泊には、この町屋が港を中心に約40棟余り、今も軒を連ねています。また、北陸地方等でよく見られる、雨戸に明かり取りを設けた窓付き雨戸やガラス雨戸が残っています。なお、赤泊では間口が大きいものは、建てられた年代が古いという傾向があります。徳和浦津では、前庭や塀等を設けている屋敷が大半を占めています。

◆間取り

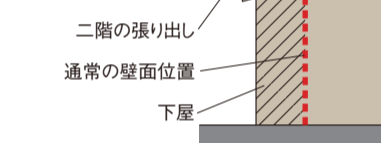
赤泊の町屋は、道路から奥に向かって二間ずつ並ぶ二列構成が多く、道路側から順に、ミセ、コザシキを配し、その奥にチャノマ、ナカノマ、ザシキを配しています。ザシキの奥に、ナカスと呼ばれる坪庭を挟んで、土蔵を設ける場合も見られます。トオリドマの上にはオモテニカイとウラニカイをつなぐ渡り廊下があり、チャノマからその廊下へと階段が架けられていることが特徴です。また、チャノマには神棚が設けられており、神様の上に人が上がらないようにするために部屋を造らず、吹き抜けになっているという説もあります。



トオリドマ上部の渡り廊下に架かる階段

◆二階の張り出しと下屋

二階の張り出しとは、二階部分が通常の壁面位置より前に張り出しているものです。他地区では「出鼻造り」や「跳ね出し造り」とも呼ばれます。また、下屋とは一階部分が二階の壁面位置より前に出ているものです。片方のみを持つ町屋は他の地域でも見られますが、赤泊では二階の張り出しと下屋の両方を持つ町屋が、しかも妻入り・平入りの町屋両方に見られます。



まつり



▲赤泊みなと祭り
毎年8月の第1日曜日に開催される赤泊みなと祭りは、港の繁栄を願って行われていた「淵の口弁天」の祭りを起源とし、



赤泊港出入りの船の安全航行を祈願する商工祭として定着しました。メインイベントの日本海海上大相撲は大変賑わいます。また、ダンボール舟レースや花火大会が行われるほか、佐渡おけさや赤泊小唄の民謡流しが行われます。

▶赤泊まつり

4月18日に開催される赤泊まつりは、八幡若宮神社の祭礼です。まつりでは神輿や山車、大獅子、小獅子が町を練り歩き、露店も出て、夜まで賑わいます。



◆【旧赤泊村の小獅子が奉納される例祭日】
◆杉野浦——4月1日 杉野浦白山神社
◆赤泊新谷——4月18日 八幡若宮神社

◆小獅子

旧赤泊村には杉野浦と赤泊新谷の2地区に小獅子があり、例祭日には、それぞれ門付して歩きます。

▶鬼太鼓(おんでこ)

鬼太鼓は約500年前に佐渡に伝わったものと言われ、その年の豊作や大漁、家内安全を祈りながら、家々の厄払いのために行われます。旧赤泊村には徳和山寺、腰細、赤泊、徳和浅生、苅場の5地区に鬼太鼓組があります。



◆【旧赤泊村の鬼太鼓が出る例祭日】
◆赤泊——7月16日 神明社
◆徳和山寺——4月15日 徳和諏訪神社
◆腰細——4月16日 春日神社
◆徳和浅生——9月15日 大棟神社
◆苅場——9月の第2日曜日 白山神社

芸能



▲古民謡「山田ハンヤ」
ハンヤは九州のハイヤ節が西回り航路の船乗りによって伝えられ、佐渡おけさのルーツと言われています。旧赤泊村三川の山田地区では毎年8月13~15日のお盆に、夜8時から12時までハンヤをはじめ、そうめんさん、やっこせいの三つの古民謡に合わせて輪踊りが行われます。



▲民話「語り部」
赤泊は民話の里としても知られ、地元で伝わる民話を題材とした銅像が各所にあります。現在、赤泊には語り部が数人おり、小学生や観光客に、赤泊に伝わる民話を語っています。

【語り部問い合わせ先】
金子勝雄 TEL:0259-87-2240

特産品



▲ベニズワイガニとナンバンエビ
ベニズワイガニとナンバンエビ(甘エビ)は、佐渡沖で水揚げされ、冬が旬です。ベニズワイガニは茹でたてが最も美味しく、佐渡では手頃な値段で味わう事ができます。



▲イカ
佐渡はイカ漁が盛んな地域です。春から夏はマイカ、秋はアオリイカ、冬はヤリイカが旬で、年間を通して様々な種類のイカが楽しめます。



▲おけさ柿
正式名称は平核無(ひらたねなし)と言い、種がない事から、越後の七不思議の次から、越後の七不思議とも呼ばれています。甘さが強く、旬は秋です。



▲地酒
北雪酒造がつくる赤泊の地酒は、全国の鑑評会で何度も金賞を受賞しており、佐渡を代表する地酒の一つです。代表的なYK35(しずく)酒を初め、「船で運ばれ波に揺られた酒はうまい」という言い伝えを元につくられた超音波熟成酒などの、面白い発想によるお酒も楽しめます。

【アクセス】

●お車でお越しの方

- 両津港より 70分(35km)
- 小木港より 20分(15km)

●路線バスをご利用の方

- 両津港→真野新町→赤泊 南線 40分(乗換え) 赤泊線 45分
- 小木港→赤泊 赤泊線 40分



●このマップは、多くの方に旧赤泊村中心部の町並みの魅力を知ってもらおうと共に、実際に散策して頂くために作成しました。なお、マップに掲載されている一般民家は非公開になっております。まち歩きをする際は、住んでいる方のご迷惑にならないよう配慮をお願いします。

【アクセス問い合わせ】

佐渡汽船(株)赤泊代理店……………TEL:0259-87-3101

【問い合わせ】

- 赤泊自然休養村管理センター……………TEL:0259-87-3121
- 赤泊商工会……………TEL:0259-87-2200
- 社佐渡観光協会南佐渡支部……………TEL:0259-86-3200
- サンライズ城が浜(望楼のある港景観を守る会)……………TEL:0259-87-3215

【宿泊施設】

- 赤泊自然休養村管理センター……………TEL:0259-87-3121
- 大井屋旅館……………TEL:0259-87-2012
- サンライズ城が浜……………TEL:0259-87-3215
- 二階屋旅館……………TEL:0259-87-2050

【お食事処】

- 赤泊自然休養村管理センター……………TEL:0259-87-3121
- 海望亭食堂・カフェカサブランカ……………TEL:0259-87-2041
- 小佐渡……………TEL:0259-87-2840
- サンライズ城が浜……………TEL:0259-87-3215
- 食堂春日……………TEL:0259-87-2838
- 飯店 優遊……………TEL:0259-87-3292
- 三益……………TEL:0259-87-2172

【参考文献】

- 日本歴史地名大系第15巻「新潟県の地名」平凡社、1986
- 赤泊村史編纂委員会「赤泊村史上下巻」赤泊村教育委員会、1982
- 佐藤利夫「新・にいが歴史紀行12佐渡市」新潟日報事業社、2004
- 新潟県教育委員会「新潟県歴史の道調査報告書第十二集 相川街道・松ヶ崎街道」新潟県教育委員会、1998.3
- 鈴木秀美「港町赤泊における歴史的建造物の残存状況及び外観特性」新潟大学工学部建設学科建築学コース平成21年度卒業論文

発行——望楼のある港景観を守る会(代表:上野初男 TEL:0259-87-2807)

編集——新潟大学 工学部 建設学科 都市計画研究室

協力——八木千恵子(佐渡市世界遺産推進課)

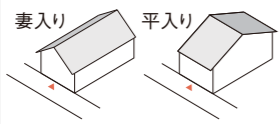
版下・印刷——(株)小林印刷所

※このマップは「佐渡市地域まちおこしモデル事業」の助成を受けています。

佐渡赤泊



- 【凡例】
- 歴史的建造物(推定を含む)
- 妻入り
 - 平入り
 - 寺社
 - その他の建物
 - 五人間屋
 - 撮影ポイント
 - 駐車場
 - 銀行ATM
 - バス停
 - 公衆トイレ
 - お食事処
 - 宿泊施設



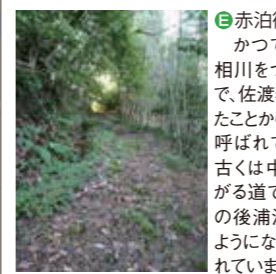
【妻入り・平入りの混在】
妻入りは棟と垂直な側面に入り口があるものを言い、平入りは棟と平行な側面に入り口があるものを言います。佐渡島内の相川や小木等の町場では平入りの町屋が建ち並ぶのに対して、赤泊では妻入りと平入りの町屋が混在している町並みが見られます。



②井戸
現在でも水が湧いている井戸です。共同井戸(雑用水)として使われています。



③石畳の参道
遍照寺と禅長寺へと続く参道です。石畳が趣きのある雰囲気を出しています。



④赤泊街道
かつては赤泊と相川をつなぐ街道で、佐渡奉行が通ったことから殿様道と呼ばれていました。古くは中町から上がる道でしたが、その後浦津側を通るようになったと言われています。



⑤宮川
八幡若宮神社の参道沿いにある小川です。洗いに降りるための石段が現在も残っています。



⑥城の山公園展望台
赤泊の町並みを一望できる展望台です。この辺りは、天正時代(16世紀末頃)に赤泊城主の本間氏が築いた城があったと言われています。



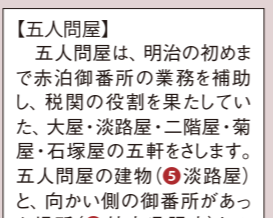
① 遍照寺
真言宗のお寺で、北前航路の回船を持つ大商人であった、佐藤勘十郎が建立しました。



③ 延命寺
真言宗のお寺で、江戸時代に全国行脚をしていた時宗遊行上人が、相川に向かう際の宿をつとめていました。



⑤ 淡路屋
五人間屋のうちの一軒で、明治7(1874)年の大火直後に建てられた、赤泊で最も古い町屋です。また、この地域一帯の取り纏め役だったとも言われています。



⑥ 外内呉服店
かつては呉服店を営んでいた、蔵造りの建物です。この建物が建つ以前は、赤泊の御番所がこの場所に建っていました。



⑧ 二階屋
明治7(1874)年の大火直後の町屋で五人間屋のうちの一軒です。二階屋という屋号は江戸時代に唯一、二階建てを許されたからだとされています。現在は旅館。



⑩ 旧前佐渡(まえさど)水電
大正9(1920)年の建物で、かつては電力会社でした。洋風下見板や縦長の上げ下げ窓が見られ、赤泊では珍しい洋館です。



⑫ 旧田辺邸
松前稼ぎで成功した田辺九郎平の旧邸宅で明治30(1897)年頃建てられました。八角形の望楼は躰(こしん)場御殿の望楼に似た形をしています。



⑭ 八幡若宮神社
赤泊の鎮守で、町の中央に位置しています。赤泊の春祭りはこの八幡若宮の祭礼で神輿渡御の行列等でにぎわいます。



⑯ 浄福寺
かつて上相川にあったものが慶長18(1613)年に赤泊に移転したものです。江戸初期からの由緒ある浄土真宗のお寺です。



⑱ 重四郎
かつて材木を扱う仕事を営んでいました。せがいで、ガラス雨戸が見られ、矢羽根模様の戸袋が建物の両端に付いています。



⑳ 太郎左工門
浦津でも歴史のある屋敷で、「上(かみ)」と呼ばれていた家柄です。相川の奉行所の役人が年貢を受け取りにくる際に、眺めるのを楽しみにしていたと言われている、立派な庭園があります。



② 禅長寺
京極為兼卿が配所と伝える真言宗の由緒あるお寺です。現在の本堂は明治37(1904)年に再建されたものです。



④ 喜八郎
明治40(1907)年の間口の大きな妻入りの町屋で、かつては赤泊の郵便局をしていました。



⑥ 外内呉服店
かつては呉服店を営んでいた、蔵造りの建物です。この建物が建つ以前は、赤泊の御番所がこの場所に建っていました。



⑦ 旧岩間医院
昭和初期の建物で、かつては医院でした。特徴的な八角形の玄関やその柱、せがいで、前庭等があり、細部まで凝った造りが見られる建物です。



⑨ 森川
かつては呉服店を営んでいました。戸袋にある森川の屋号の文字と、屋根の上の明かり取り、二階の張り出しと下屋が見られる町屋です。



⑪ 西方寺
赤泊の代官に任命された横地所左衛門が先祖を弔うために建立した寺院と言われています。江戸初期からの由緒ある浄土宗のお寺です。



⑬ 旧東屋旅館
大正期の町屋でかつては旅館を営んでいました。建物の両端に付く戸袋と窓付き雨戸が見られ、間口が大きく二階の張り出しと一本の丸太を使った下屋がある建物です。



⑮ 旧越見館
かつて旅館を営んでいました。建設当時からある越見館の看板と、二階の窓の内側に欄干が見られます。二階の張り出しと下屋がある町屋です。



⑰ あめや
明治期の町屋で、間口が大きく、二階が張り出しています。ガラス雨戸と建物の両端に戸袋が付いています。



⑲ 北雪酒造
明治5(1872)年の創業で、酒蔵は創業当時のものです。現在では国内やアメリカ、ヨーロッパ方面にも販路がある酒造です。試飲もできます。



㉑ 藤兵衛
浦津でも特に古い屋敷で、「中(なか)」と呼ばれていた家柄です。間口が大きく奥行きが短い浦津の建物の特徴を良く残しています。